

令和6年度
いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

WOODY STEADY LIFE 2025

家族の趣味やライフスタイルと共に。
「暮らしやすさ」も妥協しない。
長い時間を積み重ねる、
木の家づくりで
すべて叶える暮らしを。

木の家で、すべて叶える暮らしを。



自然がはぐくみ、人の和が育てる。
木のぬくもりあふれる、堅実な暮らし。

木の家で暮らそう。

地元の大工が地元の木で作る。

日本の「いい家」のつくりかた。

concept

■地元の大工が地元の木で建てるといい家になる、と言われます。南北に長い日本は気象や地理条件が地域で異なり、その土地独自の材の選び方、組立方など長年積み重ねられた経験や工夫を取り入れる地元の大工こそが、長く住める家を建てられるからです。また、地域大工・工務店は完成後もきめ細かいアフターメンテナンスや修繕に対応します。地域には信頼関係に根ざした安心できる家づくりのシステムが構築されていたのです。■茨城県では家づくりの原点に戻り、地域が育んだ木材を利用し、現代のライフスタイルに合う木造住宅を適正な価格で提供するため、地域の大工・工務店と建築設計事務所が連携・協力しながら、家づくりを通して建築主との信頼関係を育てていいく、安心と信頼の地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム（自然が育み、人の和が育てる）」の確立を考えています。■関連事業者の連携、協力の下に提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を募集し、「ここにまとめました。皆様の家づくりの検討の一助となれば幸いです。

Index

街にひらかれた「一トハウス」.....1

(有)宮本建築アトリエ+内海木材(有)

「一トハウス」.....2

岩瀬卓也建築設計事務所+アトリエキラク(株)

受け継ぐ家.....3

(株)井川建築設計事務所+同東和建設

○茨城町の平屋.....4

(株)棟匠

○ハーフビルドの家.....4

山口宏幸+株オースキ

○Hygge style5

(株)茨城県南木造住宅センター 設計事務所+
茨城県南木造住宅センター

○暮らし彩る家.....5

(株)井川建築設計事務所+同東和建設

「いばらき適合型木造住宅」とは.....6

【講評】.....8

(社)茨城県建築士会会長 柴 和伸

●...令和6年度いばらき地域適合型住宅コンペ「最優秀」作品

●...「優秀」作品 ●...リフォーム賞作品

○...令和6年度いばらき地域適合型住宅コンペ応募作品

※応募作品ページ以外 および 表紙に掲載された写真はすべて
「最優秀賞」「街にひらかれた「一トハウス」」のものです。

※受賞者の意向により「延床面積」「平面図」等の掲載が
ない作品もあります。ご了承ください。



街にひらかれたコートハウス

(有)宮本建築アトリエ + 内海木材(有)

街に、通りに、解放感とゆとりを。
内と外の緩衝空間で、柔らかく佇む家。



アウトドアリビングからリビング、中庭を望む。奥行と内外の繋がりで視覚的な広がりを確保。



リビング・ダイニングとライブラリールーム



申 請 者：(有)宮本建築アトリエ (029-244-7711)

工事施工者：内海木材(有) (0295-52-1290)

延床面積(坪)：188.22m²(55.12坪)

■住宅等が立ち並びセットバックが進まない一方通行の公道に面し閉塞感と圧迫感があるが、間口と奥行が充分にある恵まれた形状と面積を活かし、街に通りに開放感とゆとりを与え、かつ爽やかな印象の空間構成を目指した。通り側にオープンコート、住宅との間に連格子、格子と外壁の間にアウトドアリビングとバルコニーで外・内の中间に空間を設けた。■アウトドアリビングを左手に見ながらエントランスへと導く。広い玄関ホールを経て玄関コートに連なる空間はこの住まいの主空間となり、建主

の思い——内と外の緩衝スペースを中心に、柔らかく街にひらかれ、かつプライバシーを確保できる家づくり——を色濃く反映した。リビング・ダイニングの一角には圧巻のライブラリーコーナーを。空間構成の重要なアクセントとして、またライフスタイルを追求したエリアになった。■平屋建てながら合理的な架構やスパンの計画で、県産材の構造材を積極的に採用。梁をあらわしにするなど化粧材としても利用した。軒天は耐久性や質感を考慮し県産材杉の厚板を。家全体で木を感じるよう考慮した。



美しい地域材に包まれるLDK。作り付けのソファの台輪、木肘、背面も地域材。
奥の中庭に面する外壁も地域材を採用。



LDKから中庭と廊下。間接照明に映える地域材。



中庭から望むLDK。洗練されたデザインと地域材の魅力が引き立つ。



格子と外壁間に設けたスロープ。天井も地域材。

■「昔から木が好きで」という建主の要望は「無垢材の家」。その思いを汲み原木丸太の製材工の協力を得て、すべての空間の床と天井に、美しい木目と香りが広がる空間を作り出した。構造材に始まり、造作材——床や造りつけのカウンターなどは「特厚」で作り、調湿性に優れた室内環境を実現。天井板や格子の難しい納まり、天井高さまでの建具など、職人技術をふんだんに活かした丁寧な仕上げに建主にも満足して頂けた。■敷地周囲には極細の格子で塀の要素をブ

ラス。プライバシーと防犯性を確保した。中庭には深い軒の出で太陽高度への対応と、大開口で冬でもガラスに集熱し、驚きの温かさを実現する。■GIFT FOR THE FUTURE。家づくりにおいて「素材」と「技術」こそ、次代に繋げたいと考える。無垢材がもつ柔らかさと重厚感、呼吸する素材ならではの快適性。それらの素材を最適かつ最も美しく収める確かな技術を誇る職人たちの技術力。今後、より貴重により求められる家づくりの「粹」を詰め込んだ家づくりとなつた。

申 請 者: 岩瀬卓也建築設計事務所 (0294-72-6121)

工事施工者: アトリエキラク(株) (0294-85-8686)

延床面積(坪): 199.8m² (60.43坪)

次世代への贈り物、無垢材と技術力。 洗練された成熟さが織りなす重厚感。

受け継ぐ家

昔ながらの和の趣を残し、開放感と自由度をプラス。建築文化を継承する取り組みが光る住まいへ。

改修前

改修後



自然光がふんだんに入る、元々続き間だった和室をウッドデッキへと繋がるリビングダイニングに改修。格子から差し込む光を分け合いながら、テレワークスペースでの仕事はもちろん、読書や趣味の時間、将来的には子どもの勉強机として機能できる。



■施主は都心に住むご夫婦。祖父の残した空き家を改修して移り住むことを決め、リフォームに着手された。水戸での新たな生活に向け、地元の木材がふんだんに香る、魅力的ななり

フォームを提案した。■お祖父様が大切にしていた修。環境を活かし、家族のライフスタイルや仕事に合

わせた、最適なテレワークスペースを実現。地元工務店と連携し、地元業者がメシテナンスを担い、安心できる生活を提案した。地域の建築文化を継承する取り組みを積極的に実施した。

に溶け込み、魅力を高める

ことに成功した。

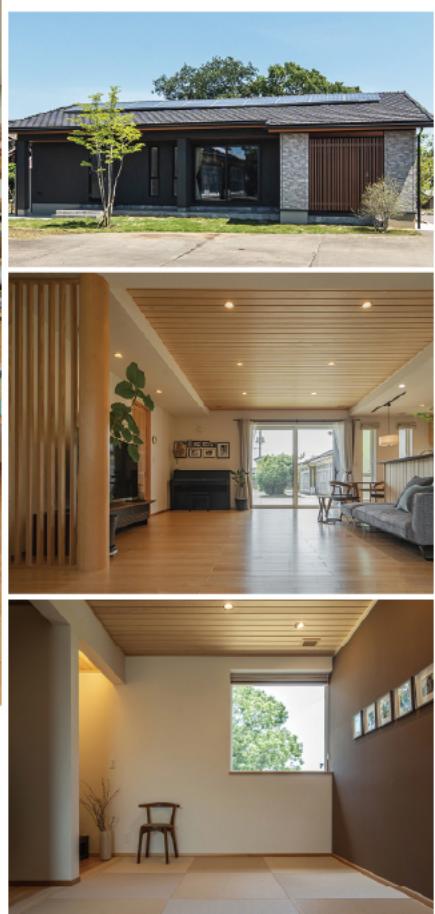


改修前



茨城町の平屋

(株)棟匠



申請者・工事施工者：(株)棟匠(029-254-1040)

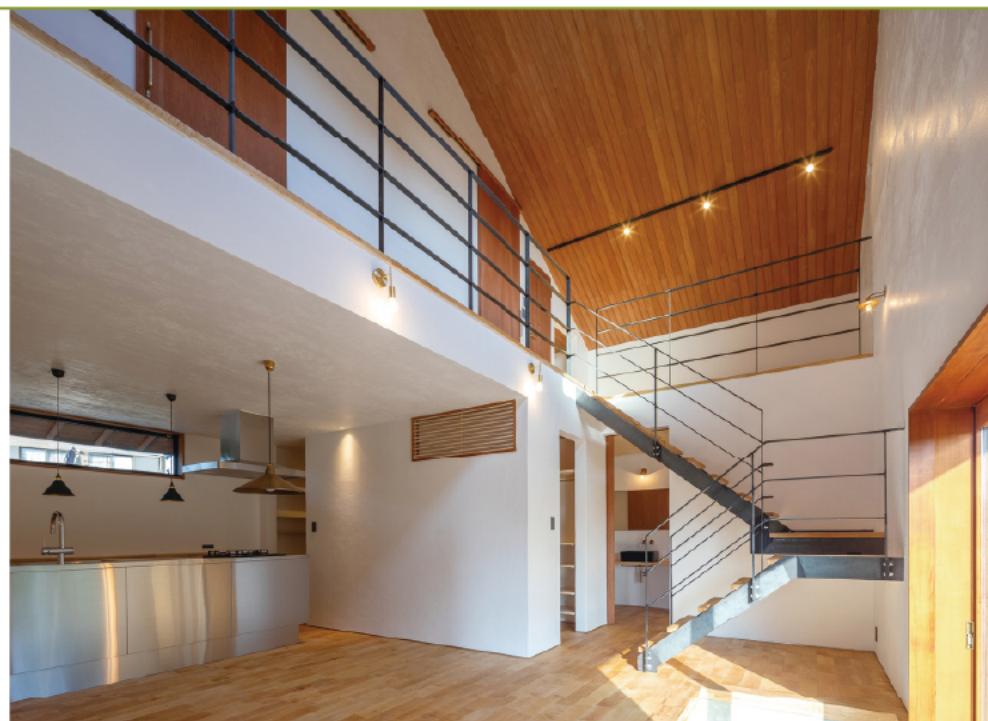
延床面積(坪)：123.12m²(37.17坪)

■ 緑豊かで閑静な住宅地。敷地北側の豊かな緑を活かすため東西を長手方向に配置、周辺の景観に溶け込む落ち着いた形状と外部色にしました。 ■ 和室、書斎ベースのピクチャーウィンドウで季節の移ろいを感じる。子育てと家事のしやすさを確保するためキッチン中心で回遊性を持たせた。収納の適材適所で家事動線を効率的にする間取り。生活スタイルの変化に対応し、持続可能な素材と仕様で時を経ることに愛着が増す木の住まいを実現した。

■ 施主に製材工場見学で地域材の魅力を知つてもらい、扱う人間との信頼関係を構築することに尽力した。地域材を用いた内装は自然素材ならではのシンプルで温かみのある優しい空間となつた。

ハーフビルドの家

山口宏幸 + (株)オーヌキ



■ 施主が工務店と相談しながら初めての設計図作成に挑戦。南の栗畑、西の田んぼ、その奥に広がる笠間の山々を望む自然豊かな土地になじむよう、設計から仕上げまでこだわった一棟。内外壁の漆喰、天井および建具の柿渋、床の蜜蠍も、施主が塗った。真っ白な漆喰は柔らかで明るく、柿渋の天井は温かく、蜜蠍を塗った床は足触りがよい。満足度の高い家となつた。

■ 勾配天井の大きな吹き抜けは二階の空間的な連続性を実現し、家族の気配を感じられる作りとした。北側の開口部は高窓で、道路からの視線を遮りながら明るさと通風を確保する。住み続ける中でこかまく、丁寧に手入れをしながら経年変化を楽しめる、まさに大工が建て、施主が仕上げた家である。



申請者：山口宏幸

工事施工者：(株)オーヌキ(029-282-2015)

延床面積(坪)：124.62m²(37.62坪)

Hygge style

(株)茨城県南木造住宅センター



申請者・工事施工者：(株)県南木造住宅センター(029-852-8010)
延床面積(坪)：97.29m²(29.43坪)

■ Hygge(ヒュッゲ)とは、デンマーク語で心豊かな時間、居心地のいい空間や楽しい時間を意味する。施主が求めるヒュッゲな暮らしのため、小さくても心地よい、日々の暮らしに充実感を得られる空間づくりを目指した。構造材・内装材は県産材を採用。洗いだしの玄関、建具職人による造作建具、大工の技が活きる造作家具など、施主の理想の住まいとなつた。■

自然の恵みを最大限に利用するパッシブデザインを採用。性能を十分に発揮できるよう、南側に大きな開口を設け、夏の日差しは屋根と軒で遮る。冬は開口部から陽を取り込みウッドデッキで緑を眺める癒される空間を生み出した。毎日、心が癒されるお気に入りの住まいとなつた。

暮らしが彩る家

(株)井川建築設計事務所 + (同)東和建設



■ 北側に望む素晴らしい景色を堪能し、自然を取り込む家づくりを目指した。地元の木材を多用し、施主家族のライフスタイルに適したスペースを提案。趣味を充実させ、暮らしを楽しむ家となつた。

■ 土間の趣味スペース、土間キッチンの家族スペース、静かな時間を過ごせる夫婦スペース、自由な時間を過ごす子どもスペース、それぞれの空間がつながる楽しい空間を実現。暮らしを楽しむための提案と、自然素材をふんだんに使った仕上げにより、家族の成長とともに経年変化を味わいながら永く愛せる住まいが完成した。自然の景観、素材の温かさ、機能的な空間づくりにより、暮らしを彩り家族を包み込む、明るく使い勝手のいい家が実現した。



申 請 者：(株)井川建築設計事務所(029-894-3848)

工事施工者：(同)東和建設(0299-56-2560)

延床面積(坪)：121.72m²(36.82坪)

「いばらき地域適合型木造住宅」とは 気候風土を踏まえ、 地域材を活用してつくる家。

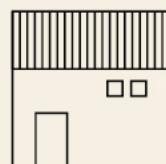
茨城県の気候・風土等の地域性を踏まえ、地域材(※)を活用し、かつ、ユーザーにとって充実感のある住宅とし、これから木造住宅の指針となるべきコンセプトを明確にした住まい。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品。

①県内の森林から生産された原木により製材されたもの。②県内の製材事業所で製材されたもの。

【主な設計基準】

- (1) 地域材を構造材全数量の50%以上使用していること。
- (2) 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適でやすらぎのある住空間とすること。
- (3) 住宅の長期の耐久性を確保し、また、地域の自然、景観、生活様式等と調和し、世代を超えて継承・持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。



なぜ地域材が推奨されるのか

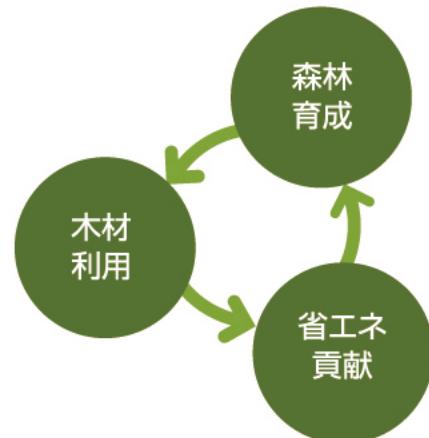


地域の森林の活性化を図り、
地球にやさしい家づくりができる。

■森林は、化石燃料などの代替エネルギーとして注目されています。成長期に高レベルの二酸化炭素削減効果を発揮し、地球温暖化の防止策としても役立ちます。■地域の森林資源を積極的に活用し、同時に植林を進め、常にバランスのとれた循環を整え、資源を生み出しながら、地球環境保護に貢献する森林を育成できる。地域材を使用する意義はここにあります。

地球環境を守るサイクルとは

「森林育成」「木材利用」「省エネ貢献」。
次代につなぐ、大切なサイクル。



■森林を育成するためには、木材の利用を促進する必要があります。木材で建築資材を作ることは、他の原料よりも効率がよく、また余分なエネルギーがかかりません。冷暖房費の節約にもつながり、省エネへの貢献度も決して小さくありません。■家づくりに用いられた木材が、いずれ土をはじめとする自然に還り、また森林を育成していく…。自然の循環、持続可能なエネルギー確保のために、木を使って家を建てるることは、非常に有用なのです。

ご存知ですか？ 地域の木材を使うメリット。

1 地域の風土に馴染みやすい…

地域材は腐りにくく、家が長持ちするといわれています。



日本人は古来から、「地元の木を使った木造住宅」で暮らしてきました。

今で言う「地産地消」です。

木は、土地の気候風土、環境に適応しながら成長します。

つまり、その土地で成長する「抵抗力」をつけながら育つということ。

家づくりにその適応力を活かすことで、丈夫な家を作りだしているのです。

2 地域ごとの「つくり方」を熟知している…

その土地の家づくりに精通した、身近なプロがいます。

「その土地で育った木を使って、その土地の大工が建てる家が、最も丈夫で安心して暮らせる」。気候の変化や風の入り方、夏の暑さや冬の雪の量に対応する方法など、その土地の「家のあり方」を最もよく知るのが、その地域の大工です。色々なことを知り、教えてくれる身近なプロの知識を最大限に活かす家づくりはいかがですか。



3 身近な環境で生まれたった材料をつかう…

材料の輸送にかかるコストを軽減できます。



建材を家づくりの現場に持ち込むための運搬距離とコストは比例します。

同時に、輸送過程でのCO₂排出量は、地域材以外の外材を使う家づくりの数分の一に抑えられます。

お財布と環境への負荷が少なくなること。

地域材を使う家づくりの、大きなメリットのひとつです。

環境に優しく、コストを抑えながら、丈夫で安心できる家が実現。

あなたの大切な家づくりをていねいに支える、

地域材のご利用を推進しています。

茨城県木材協同組合連合会

令和六年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」の審査を終えて

一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸



令和六年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」には、建築設計事務所とそれぞれの製材所と高い技術を持つ大工さん、専門技術者の皆さんのが協力し合い知恵を結集し、地域が育んだ木材を活用した9作品の応募がありました。応募作品の中には、リフォーム住宅の作品もあり、これから循環型社会へ向けて提案となっています。

竣工した住宅によるコンペは、今年で十四回目を迎え、設計者・施工者の経験と知恵を傾注し、9作品それぞれが敷地を有効に活かし、茨城の気候風土を踏まえながら地域産材を用い、設計者・施工者がその地域での生活の経験や知恵と建築主の想いを注いで造られた住宅であり、木造住宅の素晴らしさを感じさせてくれました。

審査は、7名の審査委員それぞれが、応募作品の中から最優秀作品1点と、優秀作品2点（内リフォーム作品1点）を選出し、審査委員の投票の結果、

最優秀賞「街にひらかれたコートハウス」、優秀賞「コートハウスH」、リフォーム賞「受け継ぐ家」の3作品に決定いたしました。

選外となつた応募作品にも、素晴らしい作品があり、応募された方々には審査委員長として感謝申し上げますと共に、次の機会にはさらに一層の力作の応募をご期待申し上げます。

最優秀賞

「街にひらかれたコートハウス」

短い公道に面した敷地に、緩衝帯としてのアウトドアリビングを設け、玄関エリアと連携する動線により、広がりと奥行きのあるアプローチ空間を創り出し、古くからの街の通りにゆとりある景観をもたらしています。

アウトドアリビングを囲むプライベートゾーンは、



玄関ホール・玄関コートを基点に展開され、パリックゾーンと分けられたプライベートゾーンのそれぞれの個々の居室の機能が生かされています。

を創り出しています。

県産材杉を活用した、木の香りを感じる住空間は、屋外エリアと一体となり、豊かな生活空間を創り出しています。

「コードハウスH」

県産材杉を活用した、木の香りを感じる住空間は、屋外エリアと一体となり、豊かな生活空間を創り出しています。

玄関ホール・玄関コートを基点に展開され、パリックゾーンと分けられたプライベートゾーンの個々の個々の居室の機能が生かされています。

大切な住宅を次世代に継ぎながら地域交流の場として受け継ぐ住宅として、古いものを大切にしながら、テレワークなどの新しいライフスタイルに対応した機能により、住宅を再生させています。

地域産材を取り入れた構造材により、耐震性を高め、地元工務店との連携により、循環型社会に適応した住宅を提案しています。

地域産材を取り入れた構造材により、耐震性を高め、地元工務店との連携により、循環型社会に適応した住宅を提案しています。

原木丸太から切り出された造作材や構造材は、職人の大工技術により無垢材の特質を最大限に生かしたデザインとなり、住む人と作り手の生み出す「より良い地域循環」を促しながら、健やかな住空間を生み出しています。

原木丸太から切り出された造作材や構造材は、職人の大工技術により無垢材の特質を最大限に生かしたデザインとなり、住む人と作り手の生み出す「より良い地域循環」を促しながら、健やかな住空間を創り出しています。



「コードハウスH」

大切な住宅を次世代に継ぎながら地域交流の場として受け継ぐ住宅として、古いものを大切にしながら、テレワークなどの新しいライフスタイルに対応した機能により、住宅を再生させています。

「受け継ぐ家」

大切な住宅を次世代に継ぎながら地域交流の場として受け継ぐ住宅として、古いものを大切にしながら、テレワークなどの新しいライフスタイルに対応した機能により、住宅を再生させています。

●審査委員長
一般社団法人 茨城県建築士会
会長 柴 和伸

●委 員
一般社団法人
茨城県建築士事務所協会 会長
河野 正博

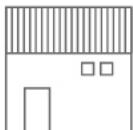
一般社団法人
茨城県建設業協会 建築委員長
松浦 一久

茨城大学工学部
都市システム工学科 教授

熊澤 貴之
茨城県木材協同組合連合会
木造建築部会長
浅川 清司

茨城県農林水産部 林政課
次長 兼 林政課長
高信 昭

茨城県土木部都市局
住宅課 課長
中島 三博



令和6年度 いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

この冊子は「いばらき地域適合型木造住宅」の基本的な考え方を啓発普及するために作成されたものです。掲載される記事内容はすべて各チームからの提出書類を要約したもので、「宣伝広告」を意図したものではありません。
また当連合会では、これら各グループへの仲介斡旋は一切行っておりません。



主 催／茨城県木材協同組合連合会
協 力／茨城県
後 援／(一社)茨城県建築士事務所協会・(一社)茨城県建設業協会

〈お問合せ先〉
茨城県木材協同組合連合会
TEL.0294-33-5121(代) FAX.0294-33-5191
(e-mail) mokuren@atlas.plala.or.jp
茨城県土木部都市局住宅課
TEL.029-301-4759 FAX.029-301-4779